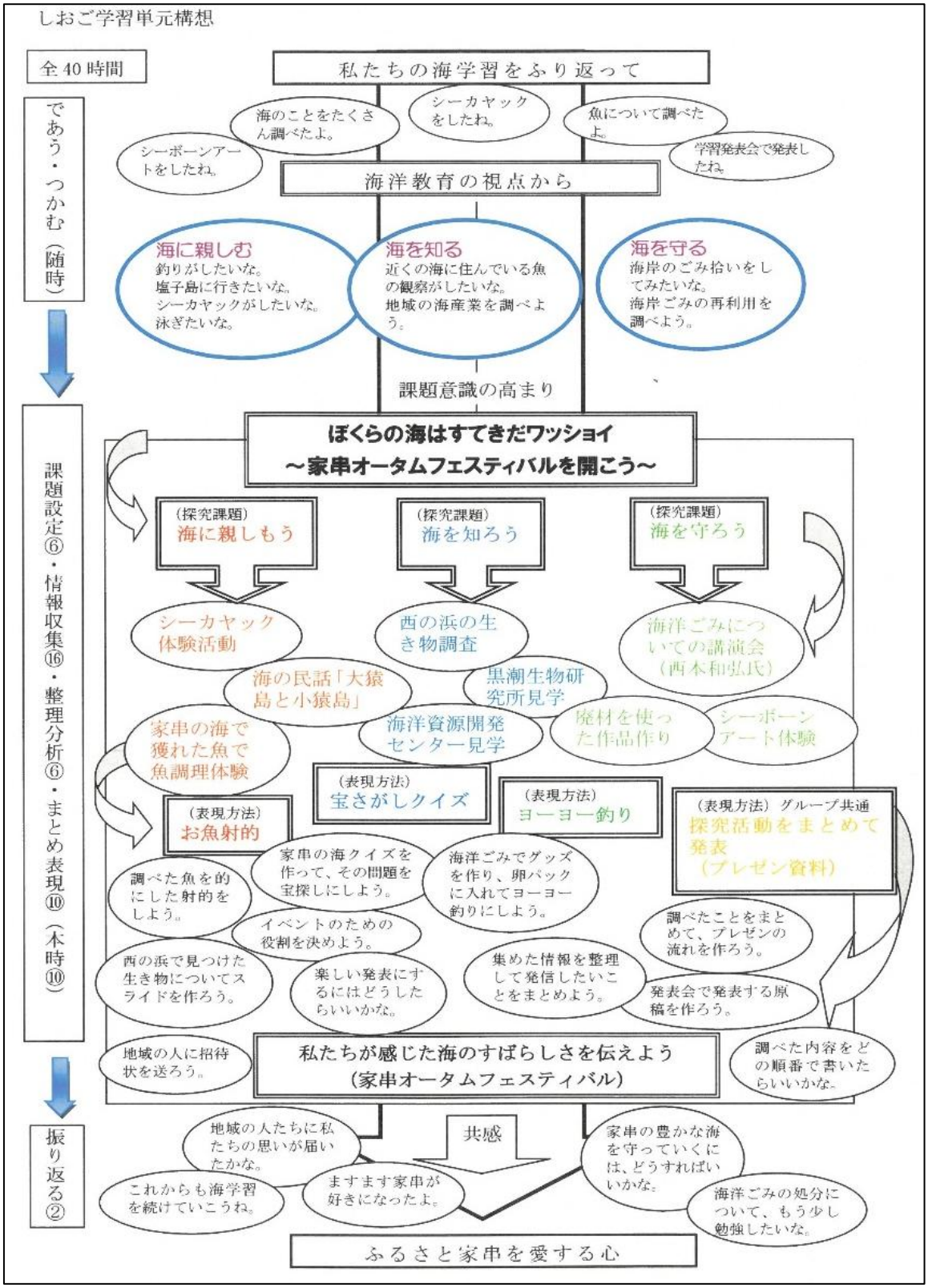
単元構想及び実施の振り返り

1　学年　　第３～６学年

2　教科等　総合的な学習の時間

3　単元名　ぼくらの海はすてきだワッショイ　　～家串オータムフェスティバルをひらこう～

4　単元の概要



5　単元設定の理由・ねらい

(1)　単元の意図

今年度本校は、海洋教育に取り組んでおり、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」の３つのテーマでグループを作り、探究活動を行っている。単元のゴールは、「私たちのふるさとは自然豊かで美しい町であると胸を張って言う。」ことである。そのために、現状を理解し、受け止め、この環境を守るためにどうすればいいのかを考えて実践していくことは、地域の一員として心豊かにたくましく生きていく上で大切なことだと考える。

(2)　児童の実態

児童は、しおご学習に意欲的に取り組んでいる。縦割りのグループを編成し、探究活動経験の違う児童が教え合い学び合えるようにしている。ゲストティーチャーとの交流を通して、ふるさとに対する誇りを少しずつ感じている様子が見られる。

(3)　本時の指導

本時は、まとめ・表現の過程である。体験活動を通して得た情報を整理・分析し、自分たちの主張に向けてまとめたプレゼンテーションの発表をする。また、ふるさとの良さを最大限に表現するためのフェスティバルを企画・運営することで、地域の一員としての自覚を持つことができると考える。

6-1　本単元で習得させたい「知識及び技能」

【第３・４学年】	【第５・６学年】
①　家串の海の良さや問題点について理解している。 ②　インターネットや図鑑、インタビュー等、適切な媒体を使って調べる方法を理解している。 ③　インタビューの仕方や友達との意見交流の仕方などが分かる。 ④　調べたことをまとめたり、発信したりする技術（タブレット端末・ポスター・新聞・劇等）を身に付けている。 ⑤　身近にある海と自分たちの生活が密接に関わっていることに気付く。	①　家串の海の良さや問題点について理解している。 ②　インターネットや図鑑、インタビュー等、適切な媒体を使って調べる方法を理解している。 ③　インタビューの仕方や友達との意見交流の仕方などの技術を身に付けている。 ④　調べたことをまとめたり、発信したりする技術（タブレット端末・ポスター・パワーポイント・新聞・劇等）を身に付けている。 ⑤　身近にある海と自分たちの生活が密接に関わっていることを理解している。

6-2　本単元で育みたい「思考力・判断力・表現力」

【第３・４学年】	【第５・６学年】
①　家串の海の良さや問題点を基に課題を設定し、解決に向けて情報収集の方法を考えている。。 ②　課題解決のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③　課題解決に向けて必要な情報を取捨選択し、解決に向けて考えている。 ④　伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①　家串の海の良さや問題点を基に課題を設定し、解決に向けて情報収集や検証方法を考えている。 ②　課題解決のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③　課題解決に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④　伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。

6-3　本単元で養いたい「学びに向かう力、人間性など」

【第３・４学年】	【第５・６学年】
①　身近な海に関心を持ち、意欲的に探究活動に取り組んでいる。 ②　体験活動や探究活動を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③　調べたことや学んだことについて、友達や地域の人に進んで伝えようとしている。 ④　地域の海の環境や資源を守るために自分にできることを考えようとしている。	①　身近な海に関心を持ち、意欲的に探究活動に取り組んでいる。 ②　体験活動や探究活動を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③　調べたことや学んだことについて、友達や地域の人に進んで伝えようとしている。 ④　地域の海の環境や資源を守るために自分にできることを考えようとしている。

7　連携した外部団体・個人

・　海洋資源開発センター（愛南町）加屋啓太氏 ・　黒潮生物研究所（高知県黒潮町）古井戸樹氏 ・　中田非斗志氏 ・　西本和弘氏（ボランティア団体「Clean the coast」） ・　平田初一氏（キッチンカー千尋丸） ・　大石博美氏・酒井やよみ氏

8　単元の展開（全 40 時間）

時数	学習活動・主な内容	・教師の指導（外部連携・使用教材等） ・主な評価基準
6	【課題設定】 ・　昨年度の探究活動をふり返り、探究活動の方法を学習する。 ・　探究活動の方向性とゴールを設定する。 ・　個人の探究課題に沿って探究グループを作る。 ・　グループごとに探究計画を立てる。	・　初めて総合的な学習の時間を行う第 3 学年の児童に対して、探究活動の方法を知らせる。 ・　児童の希望によって「海を知る」「海に親しむ」「海を守る」の 3 つのグループ編制をする。
16	【情報収集】 ・　学校近隣の西の浜で生き物調査をする。 ・　海洋生物について詳しく調べる。 ・　地域の海洋資源や地域産業について知る。 ・　シーカヤックを使って移動し、少し離れた海岸の様子を観察する。 ・　海岸で見つけた海ごみについて調べる。 ・　近隣の海で獲れた魚を使って、調理体験をする。 ・　海の環境に対する海藻の効果等を知り、海藻アートを体験する。	・　黒潮生物研究所から指導員を招いて、見つけた生き物について教えていただく。 ・　海洋資源開発センターの見学を行い、内海地域の水産業について、教えていただく。 ・　中田非斗志氏、愛南町教育委員会学校教育課職員、保護者多数の協力を得て、シーカヤックの活動を行う。 ・　ビーチクリーン活動を行っている西本和弘氏に、海ごみの実態等について講演をしていただく。 ・　平田初一氏の協力を得て、カワハギの 3 枚おろし体験をする。おろしたカワハギは、キッチンカー「千尋丸」で調理していただいた。 ・　大石博美氏、酒井やよみ氏の協力を得て、シーボーンアート（海藻アート）の制作を行う。
6	【情報の整理・分析】 ・　グループごとに集めた情報を整理し、分類したり、関連付けたり、序列化したりして分析する。 ・　分析した結果を根拠として、グループの主張を決める。	・　体験活動毎にまとめておいた記録から、必要な情報を付箋紙に書き出し、グループで整理・分析をする。

12	【まとめ・表現】 ・　グループごとに、探究活動の成果をプレゼンテーション資料にまとめる。 ・　「家串オータムフェスティバル」の計画や準備をする。 ・　「家串オータムフェスティバル」を開催する。（本時） ・　全活動の振り返りをする。	・　「家串オータムフェスティバル」では、地域の方々や愛南町総合的な学習の時間研究委員会の先生方の協力を得て、グループごとの研究発表や研究成果を生かしたイベントを行う。

9　本時の目標

○　自分たちの探究活動の成果を聞き手に効果的に伝えることができるよう、相手意識を持って発表したり、コミュニケーションをとったりすることができる。

10　本時の展開

主な学習活動 / 具体的な児童・生徒の姿	教師の指導・支援の手立て / 評価の視点（方法）
1　オープニング ・　はじめの言葉の中で、本時のめあてを確認する。 家串のよさをたくさんの人に伝えよう―家串オータムフェスティバル―	
2　グループごとの研究発表 ・　プレゼン資料を使って、一班３分以内で発表する。	◇　相手意識を持ち、グループの主張がしっかりと伝わるような発表をしている。（態度）
3　各教室でイベントを行う。 「海に親しむ」チーム　　於：３，４年教室 ・お魚射的 西の浜調査で見つけた海の生き物や地域の方に教えていただいた魚のカードを的にして、射的ゲームをする。	・　グループの探究をまとめたポスターを掲示し、情報の整理・分析の様子が参観者に伝わるようにする。
「海を知る」チーム　　於：しおごルーム ・宝さがしゲーム ヒオウギガイの宝を探して、貝の中にあるクイズに答える。クイズは、家串の海に関するものにする。	・　参観者に楽しみながら家串の海のすばらしさを感じていただけるように、イベントの進行・運営をする。 ◇　主張したいことを相手に分かりやすく伝えることを心がけながら、積極的に参観者に声を掛けている。（態度）
「海を守る」チーム　　於：５，６年教室 ・ヨーヨー釣り 捨ててしまう卵パックでカプセルを作り、その中に海洋ごみで作ったプレゼントを入れておく。そのカプセルを釣り竿で釣り上げるゲームをする。	
4　エンディング ・　感想発表	・　自分自身の発言や発表の様子について振り返るようにする。

11-1　この学習を通して見られた児童・生徒の変容

・　異学年集団で学習を行うことで、探究活動の進め方を上学年から下学年へと伝えることができた。
・　地域のゲストティーチャーとたくさん関わることで、地域の一員であるという自覚ができ、地域の方々に積極的に関わるようになった。

11-2　保護者や地域の反応

（A 氏より）＊シーカヤック体験活動の感想文に対するお返事としてメッセージをいただきました。

子どもたちの感想文を送っていただきありがとうございました。子どもたちのあんなうれしい便りを目にすると痛い体にムチ打ったかいがあったと嬉しくなります。子どもたちも楽しい時間をすごしてくれたようで安心しました。

海辺の学校、特に内海地区の子どもたちにはもっともっと内海の海のことを知ってもらいたいと願っています。内海の歴史や生活は「海無くしては成り立たなかった」。海を題材として内海のことを深く知ることには大きな意義があるのではないでしょうか？ぜひ、家串小学校ならではの「海学習」に取り組んでいただければと思います。先日、油袋の B さんに会いました。B さんも家串小でお話をしたようですね。B さんのように、地域には多くの先生方がいると思見ます。活用してください。（後省略）